



かしわの

No 505 (1月号)

令和5年 1月10日

調布市立柏野小学校

校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho>

[mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp](mailto:kasiwano-sho@chofu-schools.jp)

新年は「吉日」の代表

校長 浅野 正臣

本年の干支は「卯」。「卯」年の意味は、芽をだした植物が「目に見えて大きく成長する」年とされています。また、兎がとびはねる様子から「飛躍や向上の年」とも言われ、どちらにしても児童一人一人の成長が楽しみな1年になりそうです。

思い返すと、昨年は冬季オリンピックに始まり夏季オリンピック、サッカーワールドカップと大きなイベントがありました。その中で、多くの選手が目標について語っていました。

オリンピック選手は「子供のころから目標に向かって努力していた」とか、サッカー選手は「前回の大会が終わった時から今回の大会を目標にしていた」と言っていました。このことから、目標というのは、1年間で到達できるものとは限らないということが分かります。何年にも渡ってでも、あるいは実現できるまでその目標に向かって努力をし続ける。その行動が、目標達成には大切だということではないでしょうか。

昨年末、5年生の学級活動の時間に来年の抱負を発表するという学習をしていました。ほとんどの児童が「この1年間でできるようになりたいこと」について発表をしていました。内容は「今まで挑戦したことがないこと」や「今まで挑戦したけど、なかなかできなかったこと」でした。新年とは、「思い立ったが吉日」の中でも最も意識しやすい「吉日」だと思いました。

また、もう一つの「吉日」について考えてみました。それは「年度」です。日本の社会の多くがこの区切りで動いていて学校はその代表的なも

のと言えます。1月は3学期の始まりでもあり、年度の終わりでもあります。そして、学年のまとめの時期でもあります。「〇年の学習のまとめをしよう」「次の学年になるまでにここまではできるようにしよう」などと声をかける機会も増えてきます。児童も、年の初めの新たな目標と共に、4月に立てた目標にどこまで近づいてきたか考える時期になります。もし、思ったように進めていない目標があるときは、新年を契機に、改めて取り組むきっかけにしたいと思います。

そして、学校は「学年」を重視しがちですが、私は、無理に1年という期間にこだわらなくてもいいのではないかと考えています。なぜなら、児童一人一人の実態に応じて、目標に近づいていくことも大切だと考えるからです。学習指導要領の中にも、複数学年で繰り返し学習することについて触れられています。

私は、多くの児童とかかわっていく中で、児童によっては、すぐにはできなくても、できるようになったときは一気にできるという場面を目にしてきました。

柏野小でも、全児童のペースに合った支援を大切にしています。全児童の成長のために、教職員一同、さらに力を合わせていきますので、引き続き、みなさまのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。